国際化

・「郡上踊りワークショップ（日本文化ワークショップ）」を開催
・ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア特命全権大使が本学を訪問
・「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)ワークショップ」を開催
・東ティモール国立大学工学部教官が吉田学長を表敬訪問
・モロッコのラバト国際大学と大学間学術交流協定を締結
・シーナカリンウィロート大学学長等が本学を訪問
・GU-GLOCALシンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催
・2024年度日本語・日本文化研修留学生の修了論文発表会を開催
・駐日東ティモール特命全権大使が本学を訪問
・インド工科大学の研究者２名によるセミナーを開催
・駐日リトアニア大使特別講演会を開催
・モンゴル生命科学大学学長らが本学を訪問
・スブラス・マレット大学と共催で気候変動に関する国際会議を開催
・名古屋米国領事館首席領事が本学を訪問
・臨沂大学党委員会書記らが本学を訪問
・岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2024を開催
・「十二単の着装と体験－日本の民族衣装－」を開催
・ジョイント・ディグリープログラム　ウインタースクールの閉校式を挙行
・シビ・ジョージ駐日インド共和国大使が岐阜大学を訪問
・第２回C²-FRONTS国際連携推進連絡会を開催
・ヴィータウタス・マグヌス大学アジア研究センター長らが本学を訪問

「郡上踊りワークショップ（日本文化ワークショップ）」を開催

【概要】

本学日本語・日本文化教育センター（日文センター）は、2024年5月29日（水）、日文センター和室において、ユネスコ無形文化遺産であり国重要無形民俗文化財に指定されている「郡上踊り」のワークショップを開催しました。当日は、アメリカ、インド、韓国、タイ、中国、フランス、ベトナム、ポーランドからの約30人の留学生が参加し、日本の伝統文化を体験しました。

留学生たちは、ワークショップの始まりに先立ち、美濃市の着付けグループの方々に浴衣の着付けをしてもらいました。色とりどりの浴衣を身に着け、皆嬉しそうに浴衣姿を楽しんでいました。

ワークショップでは、郡上市から3名の講師をお招きし、郡上踊りの代表的な2曲「かわさき」と「春駒」を教わりました。留学生たちは、手の動きや足の動きを丁寧に学び、真剣に取り組みました。休憩時間の間も友だち同士で教え合うなど練習に余念がなく、その熱意と上達ぶりは講師の方々を驚かせるほどでした。ワークショップ最後には、楽しくそして真剣に踊った留学生6名が選ばれ、郡上ゆかりの記念品が手渡されました。このワークショップは、留学生にとって日本や岐阜の文化を感じる貴重な機会となりました。

岐阜大学は今後もこのような文化交流の場を積極的に提供していきます。

「かわさき」ポーズで集合写真

「かわさき」を習う留学生たち

「春駒」を踊る留学生たち

踊りの講師と選ばれた踊り子たち

ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア特命全権大使が本学を訪問

【概要】

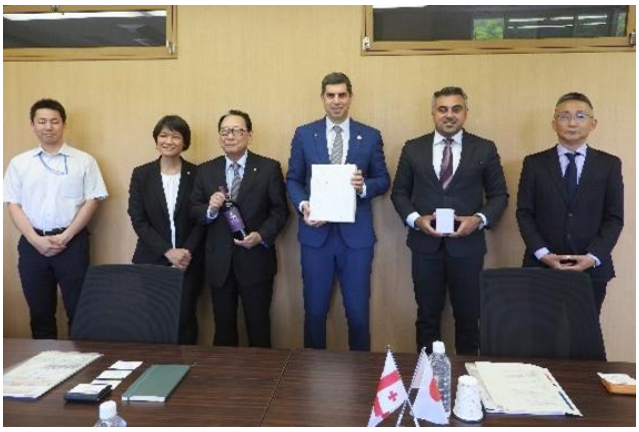
2024年6月3日（月）、ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア特命全権大使及びダヴィド・ゴギナシュヴィリ専門分析員が本学を訪問しました。

ティムラズ・レジャバ大使及びダヴィド・ゴギナシュヴィリ専門分析員は、吉田和弘学長、リム・リーワ副学長、小山博之グローカル推進機構長、教学推進・学生支援機構　神酒太郎准教授と昼食を取りながら意見交換の後、全学共通教育科目「プレゼンテーション」において、特別講師として講義を行いました。

本学学長らとの意見交換においては、本学の概要や研究拠点、国際活動に関する紹介を行い、日本とジョージアのこれまでの関係や大使ご自身の経歴等にも触れながら、本学との今後の交流の可能性について話し合われました。その後の講義では、受講した学生達が同国の文化について理解を深めると共に、ティムラズ・レジャバ大使の活発な発信力に刺激を受けました。

今回の訪問を機に、今後、同国の大学との交流が開始されることが期待されます。

ティムラズ　レジャバ駐日ジョージア特命全権大使（左）と吉田学長



集合写真

意見交換の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/6/4	岐阜	ジョージア、教育交流に意欲　駐日特命全権大使が知事訪問　～ティムラズ・レジャバ駐日特命全権大使（岐阜大で日本語表現の講義に臨む）～

「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)ワークショップ」を開催

【概要】

本学グローカル推進機構 日本語・日本文化教育センター（以下、「日文センター」という）は、2024年7月10日（水）に「留学生と日本人学生のための能楽(能・狂言)ワークショップ」を開催しました。日文センターでは、学生たちが能楽を通じて日本の伝統文化への理解と関心を深め、国際交流と異文化理解を促進することを目的として、2005年度からプロの能楽師をお迎えして能楽（能・狂言）ワークショップを行っています。6月から本学に留学しているサマースクール参加学生を含む35名の参加者が集い、日本の伝統文化を堪能しました。

ワークショップでは、講師として観世流シテ方の味方團先生および田茂井廣道先生（以上能の講師）、大蔵流狂言方の茂山忠三郎先生および山口耕道先生（以上狂言の講師）の計4名をお迎えしました。

仕舞「岩船」の実演を皮切りに、能楽の歴史及び能と狂言の面や所作（泣き方・笑い方）の違い、能楽の音楽（楽器と謡）、狂言の「笑い」の表現、狂言「寝音曲」の鑑賞、能装束の着付けといった盛りだくさんの内容が、次々と展開されました。学生たちにとって、実際に謡や所作を体験したり、本物の面や楽器や能装束を間近に見たりする貴重な機会となりました。事後アンケートでの満足度も高く、「もっと実演を多く見たいと思うようになった」など興味の高まりを示すコメントがありました。

岐阜大学は今後もこのような文化交流の場を積極的に提供していきます。

能と狂言の面

能楽の楽器演奏

能装束の着付け

集合写真

東ティモール国立大学工学部教官が吉田学長を表敬訪問

【概要】

2024年7月10日（水）、本学工学部と学部間協定を結んでいる東ティモール国立大学工学部の教官7名が吉田学長を表敬訪問しました。

東ティモール国立大学工学部の教官は、2024年6月2日から7月11日まで、国際協力機構（JICA）のプロジェクトの一環として、本学工学部にて研究・教育に関する情報交換や今後の協力について話し合うため来学しました。

表敬では、前石油鉱物資源大臣のビクトール・ソアレス教官と電力庁長官を兼務するジェロニモ・ルーベン教官から、2002年から続く東ティモール国立大学工学部と本学工学部との交流の歴史や内容、それによる成果などの紹介がありました。また、吉田学長からは、今後の研究・教育に関する交流のさらなる発展とその成果が東ティモール社会に貢献していくことへの期待が示されました。

今回の表敬訪問を機に、両大学工学部の交流がさらに発展することが期待されます。

集合写真（前列左から、ルーベン教官、吉田学長、ソアレス教官）

モロッコのラバト国際大学と大学間学術交流協定を締結

【概要】

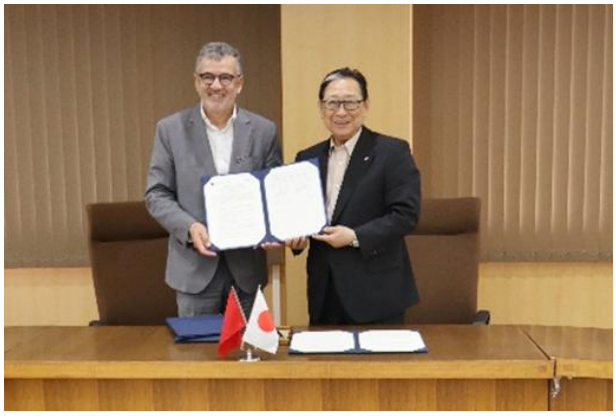
2024年7月8日(月)、岐阜大学は、モロッコのラバト国際大学（UIR）と大学間学術交流協定を締結しました。

この協定締結は、2023年5月にラシャッド･ブフラル 駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪れた際に、本学とUIRの交流を提案されたことが契機となりました。同年12月には吉田学長らがUIRを訪問し、学術交流の可能性について協議を行い、エネルギー工学分野での共同研究を中心に交流を進めることとなり、今回の協定締結が実現しました。

協定締結の署名式には、本学の吉田学長、UIRのヌレディン・ムアディブ学長をはじめ、両大学の教職員が出席しました。署名式で吉田学長は「今回の大学間学術交流協定締結を通じて、学生交流や共同研究においてより重層的な交流が始まることを期待している」と述べました。また、ムアディブ学長は「今回の協定締結、そして本日の岐阜大学の訪問を通じて、学生交流や博士課程の指導、共同研究等を発展させていきたい」と述べました。

署名式の後には、UIR側の教員３名が研究内容を紹介し、本学からは糖鎖生命コア研究所、地方創生エネルギーシステム研究センター及び航空宇宙生産技術開発センターがそれぞれの取り組みを紹介しました。その後、これらの研究所及びセンターを実際に見学し、交流を深めました。

今回の訪問及び大学間学術交流協定の締結を機に、本学はUIRとの連携をより一層深め、今後の研究交流を促進するなどさらなる国際化に向けた取り組みを推進していきます。



協定締結署名式の様子
（左から）ムアディブ学長、吉田学長

学内見学（航空宇宙生産技術開発センター）

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/ 7 /11	中日	モロッコと県　交流の深化を　「清流の国文化祭」期間中　可児で催し移行　「観光の促進に」期待　～吉田和弘　学長～

シーナカリンウィロート大学学長等が本学を訪問

【概要】

2024年7月17日(水)、本学と部局間学術交流協定を締結しているタイのシーナカリンウィロート大学（SWU）のソムチャイ・サンティワタナクンル学長をはじめとする教職員10名と学生16名が本学を訪問しました。本学とSWUは、2015年3月に部局間学術交流協定（協定部局：教育学部）を締結し、特別支援教育や障がい者の農業分野での就労支援等に関する分野を中心に研究者交流を行っています。

SWU一行は、主に美術教育、技術教育、音楽教育そして保健体育教育に関連する施設をツアー形式で見学し、学生が自身の教育手法や技能を向上させるために利用している空間や、学生や教員が開発した最新の教材教具について体験しました。特に、音楽棟では、音楽教育講座 仲田久美子准教授によるピアノ演奏を鑑賞しながら、大合唱室の音響を体験しました。

その後、岐阜フィールド科学教育研究センターの施設見学を行い、障がいのある職員によるトマトの栽培管理や収穫作業、温室栽培技術や栽培時期についても説明を受けました。SWUの学生たちは実際の農作業を見学し、障がい者がどのように農業に従事し、自立を目指しているかを学ぶことができ、「トマトが高値となる、冬季に収穫できるよう栽培していることに驚いた」、「障がい者の雇用に関して、その意義と可能性を理解した」などの感想が寄せられました。

また、今回の訪問には、同じくSWUと交流を行っている中部学院大学短期大学部の片桐史恵学長らも同席し、三大学間での更なる連携の可能性が話し合われました。

本学は今後もSWUとの連携をより一層深め、今後の教育・研究交流を推進していきます。

集合写真

音楽棟大合唱室の見学

岐阜フィールド科学教育研究センターの施設見学

GU-GLOCALシンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催

【概要】

2024年7月18日（木）、岐阜大学グローカル推進機構は、大学生・高校生の積極的な国際化プログラムへの参加を促すことを目的として、シンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催しました。本シンポジウムは2部のセッションで構成され、各セッションでは世界で活躍するメインスピーカーをお招きしました。進行はポッドキャストプロデューサー 竹村由紀子氏が務め、吉田和弘学長と脳科学者で本学客員教授の茂木健一郎氏との鼎談形式で行われました。

セッション1は、インドを拠点に企業のインド進出支援等を行うインフォブリッジ・ホールディングス・グループ代表取締役の繁田奈歩氏を迎え、「平均年齢28歳！若者大国インド」をテーマに行いました。繁田氏は、インドで事業を開始した経緯や発展著しいインド社会、インドの若者の現状などについて語りました。特に、インド人と働く上で感じた彼らの自己肯定感の高さや、失敗を恐れない姿勢を紹介し、日本の若者達にも、何かを始める際に最初から完璧を目指すのではなく、とりあえずやってみるという精神を持つことの大切さを伝えました。

セッション２は、ニューヨークを拠点に世界を代表するブランドのデジタル戦略等を手がけるクリエイティブディレクターのレイ イナモト氏を迎え、「海外で輝くためのマインドセット」をテーマに行いました。イナモト氏は中学卒業まで岐阜県大野郡清見村（現：高山市）で過ごし、その後高校進学をきっかけに海外へ飛び出し、米国での大学進学・就職を経て現在に至るまでの経験について語りました。特に、自分の興味があることや強みを見つけるために、専門を無理に絞らず広く学ぶこと、また海外留学に興味がある場合は、日本の教育レベルは高いため、気後れすることなく挑戦してほしいというメッセージを学生たちに伝えました。

セッション後の質疑応答では、各登壇者が会場参加者からの質問や相談に熱心に答え、時には自身の体験も交えて勇気づける場面も見られました。

当日は、会場に264名が参加し、Glocal Lesson*1 のリアルタイム配信からは188名が参加し、登壇者達の熱い思いに多くの参加者が耳を傾けました。Glocal Lessonでは、この鼎談の模様をオンデマンド配信しています。

本学はインド工科大学グワハティ校と実施する修士、博士課程のジョイント・ディグリープログラム（JDP）*2 を中心に、東海地域とインドとの産官学分野での連携を進めています。本シンポジウムをきっかけとし、JDPを始めとする各種プログラムへの学生の参加が促進されることが期待されます。

今後も、グローカル推進機構では、海外へ一歩踏み出す学生を応援し、大学及び地域の国際化を推進するイベントを行っていきます。

*1 グローカル推進機構が提供するオンライン学習プラットフォーム（https://www.gu-glocal.com）
*2 国際的対応力を備えた産業人および研究者の養成を目的として海外協定大学と共同で開設する教育プログラム。留学を伴う国際的な教育環境の中で研究活動を行い、在学期間を延長することなく、2大学による国際共同学位を取得することができます。

GU-GLOCALシンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催

セッション１の様子

セッション２の様子

全体の質疑応答、鼎談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/8/7	岐阜	恐れず海外挑戦を　岐阜大で人材育成シンポ　～吉田和弘　学長～

2024年度日本語・日本文化研修留学生の修了論文発表会を開催

【概要】

本学日本語・日本文化教育センターは、2024年8月4日（日）、日本語・日本文化研修留学生（以下「日研生」）による修了論文発表会を対面・オンライン併用で開催し、学内外から約40人が参加しました。今年は、タイ、中国、ベトナム、ポーランドから本学に留学している第23期日研生6人が発表を行いました。

日研生は、毎年10月から翌年8月までの約１年間、大使館推薦や大学推薦の国費外国人留学生として、また学術交流協定校からの交換留学生として本学に留学し、主に日本語と日本文化について学び、その集大成として修了論文を執筆します。論文のトピックはそれぞれの留学生が興味のあるものを選び、教員の指導と本学の日本人学生が務める論文チューターのサポートを受けながら論文を完成させます。

第23期日研生も、日本と自国の言語や文化についてそれぞれがユニークな切り口で調査・分析・考察し、力を込めて論文を書き上げました。発表会では、パワーポイントを使用しながら日本語で堂々と発表し、参加者からの質問にも的確に答えていました。また、オンラインでは、日研生の所属校教員や学生、母国の家族も視聴し、温かく有意義な会となりました。

日研生は、8月22日（木）に行われる修了式に出席し、帰国後はそれぞれが所属する大学に復学し勉学に励みます。修了生の中には、本学や他大学の大学院への留学や、日本での就職のため再来日する学生が多数います。成長した修了生との再会を楽しみにしています。

本学は、引き続き多様な国からの留学生を受け入れ、国際交流を推進していきます。

【発表者及び題目（発表順）】

○スアンボーレ　タンチャノク（タイ）
「日本人女性の前髪　―種類と印象―」

○栾　凱棋（ラン カイキ・中国）
「皮肉表現の多面性　―皮肉の分類及び日中皮肉の事例比較―」

○尹　婧禕（イン セイイ・中国）
「上野千鶴子ブームから見る中国の女性主義（フェミニズム）」

○グエン　ファム　トゥー　ミン（ベトナム）
「日本とベトナムの水墨画の比較研究」

○姚　政翼（ヨウ セイヨク・中国）
「「中国製日本語」についての考察
―岐阜大学の中国人日本語学習者を中心に―」

○ホイナツカ　アリツィア　マリア（ポーランド）
「ポーランドにおける日本の小説　―小説選択の傾向―」

2024年度日本語・日本文化研修留学生の修了論文発表会を開催

水墨画についての発表

「中国製日本語」についての発表

ポーランドにおける日本小説の発表

発表会終了後の集合写真

駐日東ティモール特命全権大使が本学を訪問

【概要】

令和6年8月26日（月）、イリディオ・シメネス・ダ・コスタ駐日東ティモール特命全権大使が本学に在籍する東ティモールからの留学生を激励するために本学を訪問し、また吉田和弘学長、小川武則医学部教授、高橋康宏工学部准教授との意見交換を行いました。

意見交換では本学の国際交流活動、国際協力機構（JICA）が実施するプログラムによる国際支援に関する紹介を行い、また東ティモールの自然・エネルギー・産業・大学教育等の話題に触れながら、協定大学である国立東ティモール大学と本学との交流における今後の展望などについて話し合われました。

今回の訪問を機に、同国の大学との学生・研究者交流の発展が期待されます。

イリディオ大使と東ティモールからの留学生、工学部教員との交流

集合写真
（左から小川教授、イリディオ大使、吉田学長、高橋准教授）

インド工科大学の研究者２名によるセミナーを開催

【概要】

2024年9月17日（火）に、岐阜大学で特別セミナー「化学、生物学、医学研究へのAIとITの応用に向けて」が開催されました。

このセミナーでは、インド工科大学グワハティ校(IITG)のChiranjib Sur博士、Karukriti Ghosh博士が、最新のAI技術を駆使した医療分野の研究成果を紹介されました。Ghosh博士は分子微生物学の分野やワクチン開発、抗菌薬耐性に関する研究を行われ、Sur博士はAI技術を用いた医療アプリケーションの革新に貢献されています。

セミナー後には学長室を訪れ、本学とインド工科大学が共同で進めているジョイント・ディグリープログラムに関する意見交換や今後のさらなる学術交流の発展について話し合いました。

これからも、岐阜大学はグローバルな学術ネットワークを活用し、研究と教育のさらなる発展を目指してまいります。

（左から）吉田学長、Ghosh博士、Sur博士、小山グローカル推進機構長

駐日リトアニア大使特別講演会を開催

【概要】

2024年10月29日（火）、岐阜大学グローカル推進機構は、岐阜大学講堂にて駐日リトアニア共和国特命全権大使 オーレリウス・ジーカス大使による特別講演会を開催しました。

本講演会は岐阜県主催の事業「リトアニアNOW2024」の一環として開催しました。冒頭の吉田学長による開会挨拶では、本学とリトアニアのこれまでの交流状況として、学術交流協定大学であるヴィータウタス・マグヌス大学及びカウナス工科大学との研究・学生交流や、2019年度にギターナス・ナウセーダ大統領による特別講演会を本学で開催したことなどを紹介しました。 ジーカス大使は、2022年5月の大使就任前にはヴィータウタス・マグヌス大学のアジア研究センター長として在籍されており、2010年には本学と同大学の交流開始に尽力されました。ジーカス大使の本学への訪問は今回で5度目ですが、駐日リトアニア大使としての講演は今回が初めてとなりました。講演では、同国の地理的特徴、文化、歴史、現在のリトアニア社会やウクライナ支援などの現状について、丁寧な日本語で分かりやすく語り、学内外から参加した約200名の参加者が興味深く聞き入りました。また、参加者からは、リトアニアの高い食糧自給率や防衛・エネルギー政策、大手チェーンレストランと共同企画開発したリトアニア家庭料理についての質問が挙がるなど同国への高い関心が伺えました。

講演会終了後には、大使による著書へのサイン会及び学生・高校生約30名との交流会が行われ、リトアニアについての知見をさらに深める機会となりました。参加者からは、リトアニアという国について幅広い知識を得られたことや、現代日本との対比についての話を聞くことができ、非常に有意義だったという意見がありました。本講演会をきっかけに、学生・教職員・地域の方々のリトアニアに関する知識が深まり、本学とリトアニアの大学との交流がさらに促進されることが期待されます。

本学は今後も、多様な国の文化に触れる機会を提供し、学生・教職員・地域の方々が国際理解を深められるような活動を推進してまいります。

講演の様子

講演の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/10/31	中日	リトアニアもっと身近に　ジーカス駐日大使　岐阜大で講演　母国は「勇気のある国」

モンゴル生命科学大学学長らが本学を訪問

【概要】

2024年11月8日(金)、モンゴル生命科学大学（MULS）のバダルチ・バーサンスフ学長らが本学を訪問しました。今回の訪問は、岐阜大学と連携に関する協定を締結している笠松町からのご紹介により実現したもので、笠松町は、一般財団法人日本礼儀作法協会を通してモンゴル生命科学大学と協定を締結しており、今回の訪問にも笠松町役場課長および一般財団法人日本礼儀作法協会代表理事らにご同席いただきました。

訪問当日は、リム・リーワ副学長（国際展開・多様性・ジェンダー(男女共同参画)(副)・図書館(副)担当）を表敬訪問し、お互いの大学紹介や、今後交流の可能性がある分野について話し合いました。

その後、岐阜大学内のキャンパスツアーを行いました。

本学は今後もMULSとの連携をより一層深め、今後の教育・研究交流を推進していきます。

集合写真

スブラス・マレット大学と共催で
気候変動に関する国際会議を開催

【概要】

岐阜大学大学院連合農学研究科（博士課程）は、11月6日（水）から8日（金）までの3日間、インドネシアのスブラス・マレット大学と共催で、「第10回International Conference on Climate Change 2024」(ICCC: 気候変動に関する国際会議) を岐阜大学にて開催しました。今年は「気候変動、植物、健康」をテーマとして、対面とオンラインのハイブリッド形式で実施しました。

ICCCでは、はじめに本研究科の平松研究科長が開会挨拶を行い、その後、環境社会共生体研究センターの村岡教授が気候変動下における長期的森林生態系調査に関する基調講演行いました。講演では、高山試験地で30年以上にわたり続けられてきた調査をもとに、気候変動が森林生態系に与える影響などについて解説しました。その他、千家前研究科長や千原元客員教授による招待発表などを実施し、3日間で対面56名・オンラインで66名が参加し、国際的な視点で多様な知見が共有されました。

また、ICCCと並行して、南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム(IC-GU12)による「IC-GU12 Roundtable Meeting 2024」（農学系博士教育国際連携円卓会議）が開催されました。9カ国21大学から25名のリエゾン教員らが対面・オンラインで出席し、博士課程教育における国際共同学位プログラム（コチュテル・プログラム）の導入について活発な意見交換が行われました。

11月7日（木）には、「UGSAS-GU Poster Presentation on Agricultural Science 2024」（農学分野に関するポスタープレゼンテーション）を行いました。学生28名が自身の研究成果を発表し、来場者による投票で4名がBest Presentation Award（最優秀発表賞）を受賞しました。

11月8日（金）には、希望者が高山市を訪れ、環境社会共生研究センター高山試験地と観測タワーを見学しました。参加者は2グループに分かれてそれぞれ見学し、地域の自然環境を肌で感じながら、研究の現場について学ぶ貴重な機会となりました。

本会議は、気候変動という地球規模の課題に対して、多国間で知見を共有し、次世代の研究者を育成する重要なステップとなりました。岐阜大学は、今後も国際的な連携を深化させ、持続可能な未来の構築に貢献してまいります。

農学系博士教育国際連携円卓会議の様子

スブラス・マレット大学と共催で気候変動に関する国際会議を開催

気候変動に関する国際会議 記念写真

ポスタープレゼンテーション

環境社会共生研究センター高山試験地

名古屋米国領事館首席領事が本学を訪問

【概要】

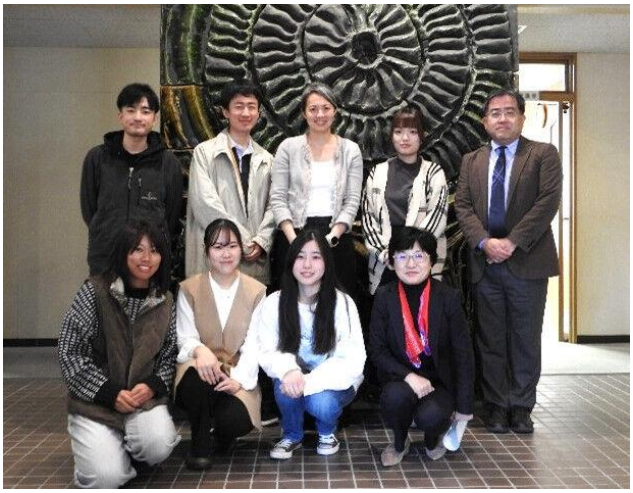
12月2日（月）、名古屋米国領事館のアンナ・ワン首席領事の表敬訪問を吉田学長が受けました。懇談の場では、岐阜大学と米国とのこれまでの学術・文化交流の歴史や今後の展望について、活発な意見交換が行われました。

本学は、サンディエゴ州立大学やノーザンケンタッキー大学、南フロリダ大学をはじめとするアメリカの大学と大学間および部局間で学術交流協定を締結しており、教育や研究を通じて長年にわたり密接な関係を築いてきました。今年1月には南フロリダ大学シミュレーションセンターとの研究者交流協定を締結し、医学分野での共同研究や人的交流の発展が期待されています。また、ノーザンケンタッキー大学とは教育学部の学生実習を通じた交流が続いており、昨年は同大学の国際教育センター事務局長が本学を訪問しました。

表敬訪問の後、ワン首席領事と本学の海外留学や渡航経験のある学生7名の交流会を行い、学生たちが海外で経験したことに関する疑問や、留学を通じて得た学びが現在の学生生活や将来設計にどのように影響しているかなど、多岐にわたる話題について意見交換が行われ、学生たちにとってはグローバルな視点を広げるとともに、国際的な経験を持つリーダーと直接対話することのできる貴重な機会となった様子でした。

本学は、アメリカの大学との協力関係をさらに深め、多様な分野での交流を今後も推進してまいります。

吉田学長らとの記念写真



学生交流会後の記念写真

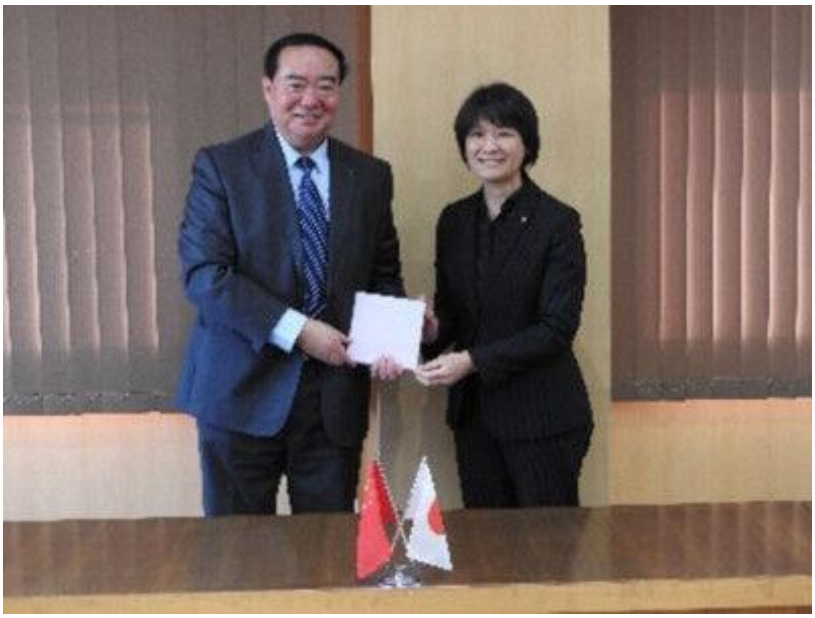
臨沂大学党委員会書記らが本学を訪問

【概要】

2024年12月3日(火)、中国山東省に位置する臨沂大学の王煥良党委員会書記らが本学を訪問しました。今回の訪問は、現在、臨沂大学の講師を務めている本学工学研究科修了生の協力によって実現し、両大学間の国際交流の促進や教育・研究分野での連携可能性を広げる機会となりました。

当日は、王党委員会書記らがリム・リーワ副学長を表敬訪問し、お互いの大学の概要や特色について情報を交換しました。特に、国際的な教育交流や研究連携など、交流の可能性がある分野について話し合いました。その後、工学部教員との懇談や学内キャンパスツアーを通じて、本学の教育・研究活動について理解を深めました。

本学は今後、臨沂大学との関係をさらに発展させ、大学間の交流を推進していきます。



王党委員会書記とリム副学長

岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2024を開催

【概要】

12月6日（金）糖鎖生命コア研究所において、「多文化共生を促進するジョイント・ディグリー」をテーマに、岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2024を開催しました。

メインシンポジウムで吉田学長は「ジョイント・ディグリープログラムは、多文化共生を促進する重要な手段の一つと考えており、異なる背景を持つ学生が交流し、共に学ぶことで、真の国際性を身につけた人材が育成されると確信している」と述べました。また文部科学省 高等教育局 武田 専門官による基調講演のほか、ジョイント・ディグリープログラム（JDP）修了学生からのメッセージ紹介、JDP実施大学(立命館大学、京都工芸繊維大学、岐阜大学、名古屋大学)による事例紹介およびパネルディスカッションを通じて、これからの多文化共生社会におけるJDPの果たしうる役割について、各大学の取り組みや成果が共有されました。

今後も各大学の連携が、さらなる発展に繋がっていくことを期待しています。

メインシンポジウムにて挨拶を述べる吉田学長

武田専門官によるコメントの様子

パネルディスカッションの様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/8	中日	共同学位の普及　考えるシンポ　岐阜大　～「ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP、共同学位）」の普及に向けたシンポジウム～

「十二単の着装と体験－日本の民族衣装－」を開催

【概要】

本学日本語・日本文化教育センター（以下日文センター）は、2024年12月11日（水）、日文センター和室において、日本文化ワークショップ「十二単の着装と体験－日本の民族衣装―」を開催しました。

当日は、インド工科大学グワハティ校とマレーシア国民大学から受け入れているウィンタースクール参加学生をはじめ、日文センター所属の日本語・日本文化研修コースの留学生（以下日研生）や社会文化プログラムの留学生等、本学に在籍する留学生や日本人学生及び教職員など、50名以上が参加しました。

本ワークショップでは、和服の着付けを専門に指導されている伊藤慶子（豊装慶）氏をはじめとした5名の講師陣によって指導が行われました。箏の生演奏も披露され、荘厳で優美な雰囲気の中、参加者たちに十二単の魅力が伝えられました。また、日文センターの土谷教授からは、日本語・英語の両言語で日本の歴史や十二単の基礎知識の説明があり、その後、着付けモデル希望者の中から選ばれたベトナム出身の日研生チャン・ティ・キム・トアさんが、小袖と長袴を身にまとい、化粧の下準備をして会場に入室しました。

講師は、作法に従い「御方様」であるチャンさんに敬意を表しながら、単、五衣、表着、唐衣、裳の順に着付けをしました。参加者からは「十二単は毎日着ていたのか」「どのように保管していたのか」「トイレはどうしたのか」等の多くの質問が次々と寄せられ、講師から丁寧な説明がありました。

十二単は重ねたままスルッと簡単に脱げ、その形を維持することができます。これを「空蝉」といいます。希望者は男女問わずこの空蝉の中に入り、重さを実感し、しきりと友だち同士で写真を撮り合って楽しんでいました。

参加者からは、日本の伝統文化の奥深さや美しさを堪能することができたとの感想が寄せられるなど、日本文化教育の充実につながる有意義な機会となりました。今後も、日本文化教育の充実を図るため、参加者が楽しみながら日本文化を理解することができるよりよい体験の場を提供していきます。

着付けの様子

完成した着付け

ウィンタースクール参加学生と着付けモデル

記念撮影

ジョイント・ディグリープログラム ウインタースクールの閉校式を挙行

【概要】

12月20日、グローカル推進機構は、インド工科大学グワハティ校（IITG）およびマレーシア国民大学（UKM）と共同で実施しているジョイント・ディグリープログラム（JDP）の一環で行っているウインタースクールプログラムの成果報告会および閉校式を開催しました。

このプログラムは、異なる文化や学問領域に触れる機会を提供し、JDPへの参加を促進することを目的とするもので、今年度はIITGから6名、UKMから2名の学生が参加し、約2週間にわたって岐阜大学で学びました。

成果報告会では、学生たちがプログラムを通じて学んだことをポスターセッション形式で発表し、吉田学長が1位と2位の学生を選出しました。その後の閉校式では、参加学生に修了証書を授与し、吉田学長は学生たちの努力と成果を称賛するとともに、プログラムを通じて日本の文化やビジネス環境に接したことが、今後の学問的なキャリアに繋がることを期待していると述べました。

このようにして、2024年のウインタースクールプログラムは無事に終了し、参加者全員が貴重な経験を得ることができました。

ウインタースクール参加者との記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/20	中日	加納高の２年生が短期留学生と交流　岐阜大　～短期留学で岐阜大を訪れているインド工科大グワハティ校とマレーシア国民大の学生８人～

シビ・ジョージ駐日インド共和国大使が岐阜大学を訪問

【概要】

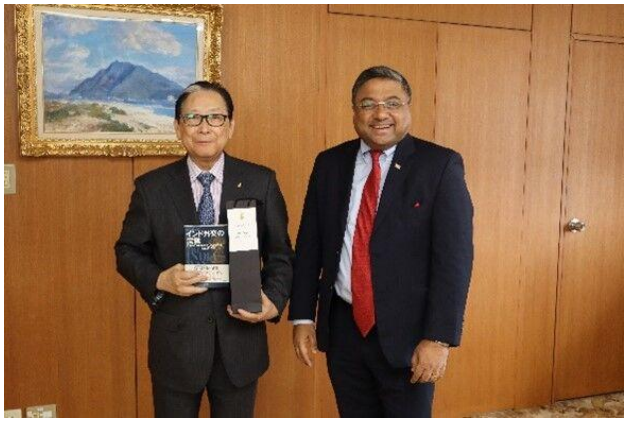
12月20日、シビ・ジョージ駐日インド共和国大使が岐阜大学を訪問し、吉田和弘学長、小山博之グローカル推進機構長、三輪真一特任教授、野々村晴子学務部長と岐阜大学とインドとの交流、国際的な教育・研究活動のさらなる推進や留学生や研究者の受け入れ・派遣の拡大等について意見交換を行いました。

学長訪問後、ジョージ大使は本学のインド人学生・教職員及び卒業生の計18名との交流会に出席しました。この交流会では、インドと日本の教育や研究に関する意見交換が行われ、学生や卒業生にとって貴重な機会となりました。

岐阜大学では、インド工科大学グワハティ校との日本唯一のジョイントディグリープログラム（JDP）を通じて、これまでに21名の修了生を輩出してきました。このプログラムを軸に、短期留学プログラムなど多様な教育機会を提供しており、毎年インド人学生が本学で学び、研究を行っています。本学の取り組みは日印両国の友好関係や産業振興、研究活動において着実な成果を上げております。

また、本学は、2025年3月にはインド・グワハティでJDPシンポジウムを開催する予定であり、日印両国の教育機関や地域間の連携を一層強化していく計画です。

今回のジョージ大使の訪問を通じ、岐阜大学はインドの大学等との交流と連携をさらに深化させ、教育・研究分野において新たな発展を目指していきます。



シビ・ジョージ駐日インド大使との記念撮影

岐阜大学に留学中のインド人学生と記念撮影

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/12/21	岐阜	インド大使、岐阜商議所訪問　印日関係の強化確認　～吉田和弘　学長～
2024/12/21	中日	インド大使　岐阜商議所に　県内でビジネスセミナー提案　～吉田和弘　学長～

第２回C²-FRONTS国際連携推進連絡会を開催

【概要】

1月24日、岐阜大学主催の「第2回C²-FRONTS国際連携推進連絡会」を開催し、本学のほか信州大学、静岡大学、名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学、豊田工業高等専門学校の国際担当副学長・副総長・副校長の皆様にご参加いただきました。

今回の連絡会では、慶應義塾大学の井上雅裕先生にオンラインでご参加いただき、「マイクロクレデンシャルの国内外の最新動向と国際連携」と題して、学習内容を細分化し、細分化された単位ごとに個別に認証するマイクロクレデンシャルの国内外における発展や、各機関が今後どのように対応すべきかについて詳しくご解説いただきました。特に、マイクロクレデンシャルを活用した国際連携の可能性や、導入における課題についての示唆は、参加者にとって非常に有益なものとなりました。

連絡会は和やかな雰囲気の中で進められ、各機関の国際交流に関する取り組み状況や課題、他機関との連携に関する要望や展望について活発な意見交換が行われました。

岐阜大学では、今後も国際連携を推進するため、関連機関との情報共有を深め、さらなる発展に向けて取り組んでまいります。

リム副学長による開会挨拶

閉会後の記念撮影

ヴィータウタス・マグヌス大学
アジア研究センター長らが本学を訪問

【概要】

2025年1月29日、ヴィータウタス・マグヌス大学（リトアニア）アジア研究センターのアルヴィダス・クンピスセンター長、シモナ・クンペ研究員、名城大学の稲葉千春教授が本学を訪問し、吉田　和弘学長、リム　リーワ副学長（国際担当）、小山博之グローカル推進機構長、野々村　晴子学務部長らと両大のこれまでの学術・文化交流の歴史や今後の展望などについて、意見交換を行いました。特に、学生や研究者の交流をさらに深め、互いの連携を強化することや学生交流においては夏季休暇の時期の相違や資金的な支援が難しいことが課題となっている現状などについても話し合われ、非常に有意義な懇談の場となりました。

今回の訪問を通じては、両大学の交流がさらに促進されることが期待され、今後も本学は、学生や研究者の交流を通じて、国際的な連携を深めてまいります。

アルヴィダス・クンピスセンター長とシモナ・クンペ研究員

懇談後の記念撮影